後の人乃枝葉を入てさたなき所に所ゝ記録
さ点墨つゝび有まぶぎん稿のみて物ゝみぬ去にけり
しかも書抱清書ふ及して有去乃如くして物去後
子孫の用として四わらんとゝ思ひつゝ去ゝ多くふ
乃連綴せざる迄成まを糊して毛草物一冊に清写乃
そゝ抜刻とのそゝんゝ岩こゝ考去ゝ子孫ゝ去らんゝ
義光て抱清下者後

ス印